

新春 おめでとうございます

2025、あらたなページの幕開きです。

卓球界もコロナ禍から抜け出し、次世代がしのぎを削って活躍しています。

2505年頭に申し上げたあらかじめ祝っておく『予祝』で、2025も大いなる成果が目の前に形をなすことを期待します。

『予祝』のキーワードは、自己の「最大化」です。

パフォーマンスを「最大化」した自身の姿をイメージし、それに向かって不断に汗をかく。

スポーツ現場で「最大化」への道をささえるにはまずは、心理的安全性という環境面を整えることです。

暴力・暴言・ハラスメントなどの不適切行為は、根絶されなければなりません。

その上に立って、「ズレのないコミュニケーション」が求められます。

では、「ズレのないコミュニケーション」とは？

ここでは、ブラインドサッカーを念頭において考えてみると、有益です。

ブラインドサッカーでは音が頼りですが、それ以上に『ことば』が重要になります。

より理解しやすい、よりプレーしやすい正確な『ことば』。

“相手は右にいるよ”ではなく、“相手は何メートル右にいるよ”。

誰かとコミュニケーションをとるには、正確な『ことば』で共通言語をつくり上げ、同じことをイメージできることが欠かせません。

ブラインドサッカーでは、この共通言語、『ことば』がより良いプレーのかぎを握ります。

そうです、「ズレのないコミュニケーション」では、行間を読むではなく『ことば』が求められます。

ブラインドサッカーで求められるより理解しやすい、よりプレーしやすい正確な『ことば』が必須となります。

『ことば』は論理そのものですが、これを積み上げてA I (人工知能)が進化します。

A Iの進化で老化のしくみが解明され、もう目の前に寿命500歳時代が到来するともいわれます。

『ことば』が進化のかぎを握っていますが、スポーツ現場でも進化(成長)のキーです。

2024年頭に申し上げた「最大化」のキーのひとつ「合理的アプローチ」を形にするのは、『ことば』です。

卓球を愛するわたしたち、『ことば』に軸足をおき「ズレのないコミュニケーション」で進化を遂げ、ことしもさらに一歩二歩成長しましょう。



一般社団法人 和歌山県卓球協会
会長 茂原 治